

やまねっと通信 第7号

2015. 6

発行: 社会福祉法人やまねっと

〒242-0028 大和市桜森3-4-2 大和泉の森作業所内 TEL 046-264-2218

3月25日に行われた理事会で承認された事業計画と予算です。事業計画ではやまねっとほむ林間に続くグループホームを桜ヶ丘に作ります。また、南部地区の事業所も見直して、のぎく作業所の定員増等を検討します。また、余暇活動支援の土曜開所については、いろいろなご意見をいただき、慎重に検討したいと思います。また、職員の研修等の充実にも努めます。(山岸)

社会福祉法人やまねっと平成27年度事業計画

昭和58年に大和市中心身障害児者福祉団体連合会が実施主体である、大和さくら作業所がオープンしました。以来、私たちは障がいのある方たちと共に小規模な事業所として歩んできました。障がいのある方たちの働く場として、連合会と市が協力しながら7か所の障害者地域作業所を作り、現在では130人強の障がいのある方たちが通っています。障がいのある方たちの卒業後の進路として、通いやすいように市内に点在しています。平成19年にNPO法人化し、翌年から、障害者自立支援法の障害福祉サービス事業所に移行し、平成25年に社会福祉法人やまねっとを設立しました。そして、親亡き後等の暮らしの場としてグループホームを作りました。私たちは小さな事業所だからこそ、ご利用者や親御さんの声を聴き、それに応えてゆかなくてはならないと思っています。

社会福祉法人は人権を守り、高い公共性を求められます。透明性のある運営と法令遵守を心がけたいと思います。そのためには働く職員一人一人が、一人の人間として人を大切にできることが基本ではないかと思えます。人と人とが支えあい、お互いに認め合える事業所運営を目指します。障がいのある方たちが地域で暮らすためには多くの人の支えが必要です。事業所の中だけでなく、いろいろな人たちと交流できるよう心がけたいと思います。私たちは社会の中で障がいのある方たちが認められるよう努力し、発信していかなければなりません。そのために、広報と研修の充実を図ります。広報ではインターネットのホームページの更新を適時していきます。また広報誌も法人や法人の事業所の情報を増やし、ご利用者やご家族、職員にもっと情報を発信します。研修ではグループホームへの実習や他法人の事業所への研修、見学等を検討したいと思います。

社会福祉法人になって3年目を迎えます。地域で暮らせるグループホームのニーズは依然として高く、法人として新たなグループホームの設置を準備したいと思えます。2年前に設立したほむ林間のノウハウを生かし、協力し立ち上げたいと思えます。働いて認められるだけでなく、余暇活動の支援ができないかと土曜日の開所も検討します。また、のぎく作業所の定員について検討していきます。

今年度は下記の項目に重点を置き活動します

(1) 総合的な支援力の強化

障害のある方の地域生活を支えるための支援者としての職員のスキルアップをめざし、一人一人の利用者により良い支援ができるよう総合的な支援力の強化を行います。

- ・キャリアパスの整備・充実を図ります。
- ・人権研修等研修の充実を図ります。
- ・サービスの標準化(支援方針の共有)に努めます。

(2) 土曜開所の検討

- ・利用者の余暇支援のために土曜日の開所に向けて体制を整えます。

(3) 新たな生活施設の設置

- ・南部地域に新たにグループホームを設置します。
- ・ほむ林間と同様に1建屋に2事業所(5名×2か所=10名)の方式にします。
- ・ほむ林間と連携し、支援を行えるようにします。

(4) 南部地域の事業所の再編

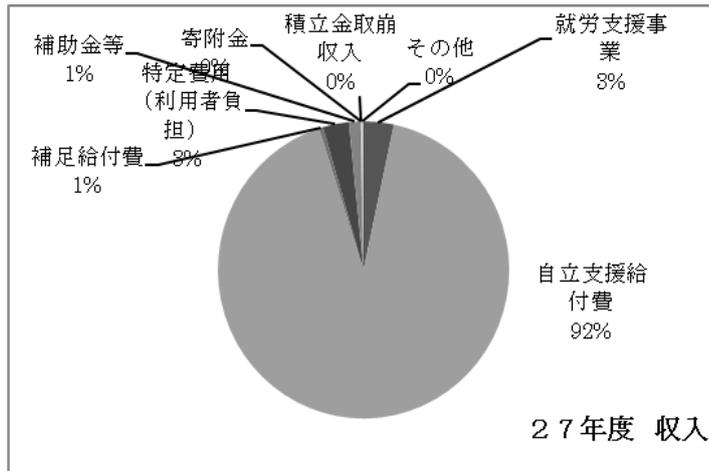
- ・南部地域ののぎく作業所の独立を検討する。
- ・現在ののぎく作業所は10人規模の就労継続Bで福田作業所の分場としていますが、小規模のため運営的にも厳しく、福田作業所より独立し20人規模の事業所として、移転等を視野に入れ検討します。

平成27年度 社会福祉法人 やまねつと

予算の概要についてお知らせします(事業活動による収支)

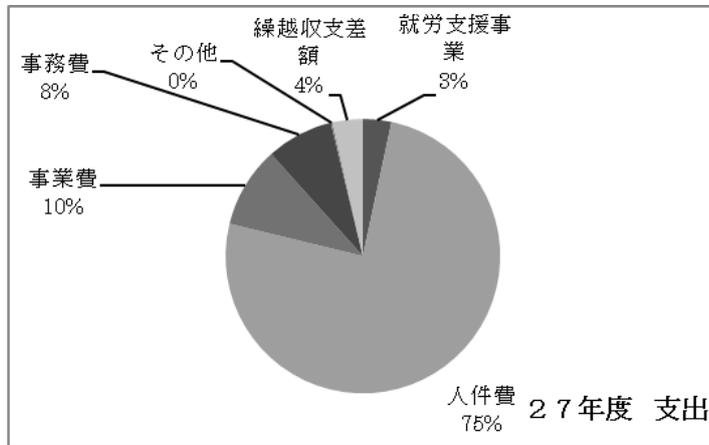
平成27年4月1日より平成28年3月31日まで

単位:円



収入の部

就労支援事業	8,858,000
自立支援給付費	242,500,000
補足給付費	1,200,000
特定費用(利用者負担)	7,650,000
補助金等	3,375,000
寄附金	222,000
積立金取崩収入	0
その他	637,000



収入合計

264,442,000

支出の部

就労支援事業	8,858,000
人件費	199,521,000
事業費	25,255,900
事務費	20,876,520
その他	526,000
繰越収支差額	9,404,580

支出合計

264,442,000

季節のコラム

梅雨を乗り切るために

梅雨というのはもともと中国からきた言葉のようです。考えてみれば梅雨は日本固有のものではなく、韓国や台湾、中国南部にわたる気象現象です。台湾が梅雨というもピンときませんが…。中国や台湾では梅雨と書いてメイユーと読むそうです。関東地方では6月上旬から7月下旬までの1か月から1か月半ほどが平均的な期間です。

長く続く雨やじめじめとした湿気の多い環境が続く、体のだるさ、疲れ、頭痛や肩こりなど体調不良を感じる方も多いようです。人は本来気温の変化に合わせて体温を調整する性質を持っていますが、4月から5月にかけては1年で最も気温が上昇しやすく、温度差が激しいのです。それによりよく慣れたところ、梅雨がやってきます。雨が降ると寒く感じ、晴れると高温になり気温差を感じます。その気温の変化についていけず自律神経の乱れなどが起こりやすいのです。また、多湿な環境のため体に水分がたまりやすくなり、これらが原因となり、体温が下がり血行や新陳代謝の機能が低下し、体調不良につながります。梅雨独特の体調不良を予防するポイントを紹介いたします。

①運動 運動により筋肉を刺激し血行や新陳代謝を促進し、体に不要な水分や老廃物が体から排出されます。

②休息 体調不良の原因となる自律神経の乱れを起こさないように、夜は十分な休息をとって気持ちのリフレッシュさせましょう。

③外出 雨が降っていない場合はなるべく外出するようにしましょう。日光を浴びると、体内時計を調整して梅雨で沈みがちな気分をリセットでき、良い睡眠に導いてくれます。

④入浴 人は汗をかくと、その分汗腺の働きがよくなります。入浴をすることで十分に汗をかき、気分をリフレッシュできるでしょう。

⑤睡眠 十分な睡眠をとることは、自律神経の乱れを整え気持ちを安定させてくれます。1日7時間の睡眠時間が確保できるのがいいです。

これらだけでなく、食事や胃腸に負担がかかりやすいので、量を2/3に減らしたほうがよいそうです。なかなか難しいですね。自律神経が乱れやすい梅雨の時期ですが、何とか快適に乗り越えたいものです。

知的な障がいのある人の中には温度変化の苦手な人が多く、中には汗をうまくかくことができない人もいらっしゃいます。この季節は洋服や汗に注意して、体調の変化に気を付けていきたいですね。



グループホームというと一般の方たちは認知症の方たちのグループホームを思い浮かべると思います。しかし、認知症のグループホームができたのは2000年で、それ以前から障がいのある方のグループホームはありました。障がいのある方のグループホームは1989年地域生活支援事業としてスタートしました。のちに宮城県知事になった浅野史郎さんが、国の児童家庭局障害福祉課の課長時代にできました。4～7名の方が入居するものでした。神奈川県ではそれ以前に生活ホームという制度がありました。どちらも、入所施設のように大人数で暮らすのではなく、少人数で家庭的な雰囲気の中で暮らせるようにしようとしたものです。1980年代に障がいのある人たちの入所施設を法律でなくし、小規模のグループで暮らしを支えるようにしたスウェーデンをモデルにしたのではないかと思います。

2006年に障害者自立支援法ができて、グループホームとより介護や支援の必要な方のためのケアホームができましたが、2012

使ってみよう！ 制度の話④
グループホーム

年に障害者総合支援法ができ、ムに統一されました。201所に8万人が暮らしています。は介護をグループホームの事と、外部の委託事業者が行う

2014年にまたグループホーム3年当時で8000か所の事業一元化されたグループホームに業者が行う介護サービス包括型外部サービス利用型があります。大和市内には16か所のグループホームがありますがすべて介護サービス包括型です。一元化されても設置基準は変わりません。居室の定員は1名、居室の面積は収納施設を除き7.43㎡(4畳半)以上、入居定員は2名～10名で、居室および居室に近接して設けられる相互に交流を図ることができる施設を設けることとされています。もちろん食堂や風呂、トイレ等設置されますが、細かい規定はありません。職員の配置基準は相談等日常生活の援助を行う世話人と、食事や入浴の介護等の日常生活上の支援を行う生活支援員が必要です。外部サービス利用型の場合は生活支援員の配置は必要ありません。もちろん、管理者とサービス管理責任者は必要です。世話人は6人に対して一人の配置が必要です。生活支援員も最低配置基準がありますが、利用している方の障害支援区分によって変わります。

グループホームを利用したい方は、障害者手帳を持ち、障害支援区分の認定を受け、相談支援事業者にサービス等利用計画を作ってもらい、障害福祉サービス受給者証を持っていることが必要です。生活に必要な費用は家賃や光熱費食費等事業所によって違います。やまねっとほーむ林間は7万円ほどかかります。

なんだか利用するというより設置する説明になってしまいましたが、グループホームは暮らしの場なので、実際に行って雰囲気や暮らしぶりを直に感じた方がいいと思います。

新人職員紹介

新しくやまねっとのスタッフになった新人です。よろしくお願いします。やまねっとほーむ林間のスタッフは次号で紹介します。



大和福田作業所
かとう はじめ
加藤 孟
(常勤)



大和福田作業所
みやざわあさみ
宮澤亜粧美
(非常勤)



大和みつば作業所
いのうえ ようこ
井上 葉子
(非常勤)



大和みつば作業所
えんだ こ
遠田 きみ子
(非常勤)



大和泉の森作業所
おぼら ちえこ
小原 千恵子
(非常勤)



大和泉の森作業所
ひろせ しん
広瀬 信
(非常勤運転士)



大和泉の森作業所
おくむら みほ
奥村 美穂
(非常勤)



大和つきみの作業所
ふたみ じゅん
二見 潤
(常勤)

大和福田作業所を知ろう

高座渋谷にある大和福田作業所。駅から歩いて10分ほどのところにあります。就労継続支援B型と生活介護の多機能型の事業所です。26人の定員の事業所です。



①出勤 9時出勤です。自分で通って来る人、送迎の車で来る人、ご家族に送られる人とまちまちです。



②作業(1階) 一階では教材を袋づめする作業とおしぼり等を重ねて100枚数える作業を行っています。



③作業(2階) 2階では発送の準備の仕事や電機の部品を組み立てる仕事をしています。ときどき軍手の解体の仕事が入ります。



福田作業所はできて25年を迎えます。建物が少し古くなったかな。できた当時は畑の中でした。今は住宅街の一角、歴史を感じますが、開所当時からいる人もたくさんいます。障がいのある人の働く場所としてスタートした福田作業所、仕事をいただく会社からの、品物の受け取りや納品の時には全員で品物を運びます。そうしたチームワークや人をおもいやるところが、大人の働き方だと思えることがあります。働くことで社会に認められること、どんなに障がいが高くても働くことに参加できることを目指します。

働くことだけでなく、仲間と一緒に経験を重ねようとお楽しみDayや「ランチでGo」で出かけることを楽しんでいきます。いろいろな経験をすることで、人として豊かになれるのです。障がいがあるからこそのいろいろなことを経験することが大切だと思います。運動では公園をできるだけ歩こうと思います。四季折々の自然が出迎えてくれますが、厳しいこともあります。誰もが人と人の間で生きています。障がいがあるのかかわらず人に認められることで成長できるのです。障がいのある人もない人もお互いを認め合い評価してゆきたいと思えます。(山岸)

④運動 2~5人の少人数で公園に行きます。ゆとりの森や蟹ヶ谷公園、谷戸山公園を歩きます。雨の時などは綾瀬のタウンヒルズを歩くこともあります。



⑤昼食 お弁当の人、コンビニで買う人、仕出しのお弁当を食べる人いろいろな人がいます。仕出し弁当は山路フーズさんです。370円です



⑥帰宅 3時になるとお茶を飲み、掃除をして、ハンコを押して3時30分に帰宅します。ごくろうさまでした。



忘年会



ここ数年は北京飯店で忘年会を行います。中華料理のコースを楽しんだ後カラオケをするのが定番です。

旅行

昨年は西浦温泉に行きました。海の幸を食べ、ミカン狩りを楽しみました。



年に3回、春・夏・冬に企画されます。3~4人のグループで1回に3~4の企画があり、自分の好きな企画に参加します。昨年5月のお楽しみDayです。

お楽しみDay



ヤマトストラップもよろしくね

ランチでGo

昼食を外に食べに行く企画。職員と1~2名で出かけます。ファミレスが人気です。やっぱりハンバーグかな

